2024.7.19

【研修プログラム詳細】

今回は３つのプログラムを設定しました。いずれも『人』に関するプログラムで、自身がチャレンジしたい分野・関心ごとから選択することができます。

①「村民一人ひとりの暮らしを豊かにする『地域デザイン』プログラム」

・テーマであるシティプロモーションの第一段階として、地域に暮らす方々自身が「地域の魅力」を知り、楽しむことが重要です。単に SNS で広報 PR することや、バズる動画を撮影するなど「手段の目的化」に終始してしまわないこと、かつ外の人たちばかりに関心を向けすぎないことが、今回のプログラムではポイントとなります。
・限られた研修期間で、どうすれば「一人ひとりの暮らしを豊か」にすることができるか。村民 620 人と直接向き合い、自らコミュニケーションを取る中から、「いま、自分にできること」を見つけ出し、行動を起こしてください。
・今回での「地域デザイン」とは、「村民一人ひとりの村での暮らしの未来を描く」ことです。村民ヒアリングをして行政への不満や要望を集め、プランニング計画と提案を求めているわけではありません。地域にインターン生が滞在し、村民と直接関わる中から、どのようなことを見いだせるか、それをどう地域へ還元できるかを、行政職員や学生メンターのフォローを受けながら考え、描いていただきます。
・成果物（アウトプット、成果報告）は必須ではありません。

②「木工芸アーティストを応援する『小さなアクション』プログラム」

・村立高校「北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（通称:おと高）」をはじめ、森林資源や芸術文化が豊かな村でもあります。
・村には、木工芸体験施設「木遊館（もくゆうかん）」があり、誰でも気軽に木工体験ができ、指導員スタッフにはおと高卒業生のアーティストの方も常駐しています。おと高を卒業し、村で創作活動をするアーティストに着目し、どのような形で応援ができるかを探ります。
・特に木工体験施設の木遊館は、スタッフ常駐や加工機械も充実している一方で、技術指導スタッフの不足やさらなる利活用も求められています。
・村の重要な資源・人材でもある「木工芸アーティスト」を、どのように応援していくことができるか。村に暮らす方をはじめ、地域外で活躍する卒業生アーティストもいることから、村民一人ひとりや地域外の方々とも自らコミュニケーションを図り、対話の中からインターン生ができる小さなアクションにチャレンジしてください。
・イベント開催が目的化することなく、柔軟な発想や将来を見据えた思考が重要です。
・成果物（アウトプット、成果報告）は必須ではありません。

2024.7.19

③「大学生と村民との『協働デザイン』プログラム」

・これまで村が取り組んできた「都市圏学生交流推進事業」や、本インターンシッププログラムは、ありがちな地域内外交流や、大学生からの一方的な提案を求めることを目的とせず、大学生と村民が中長期的に協働する「プロセス」を重視したプロジェクトです。

・オンラインや対面での協働の中から、大学生自身が村のことを「自分事」として捉え、村民も改めて自分たちの地域のことを正面から再考することへとつながり、地道な議論と小さな試行の積み重ねによって、将来の地域活性化へと展開していくことが目的です。

・村とゆかりのない大学生が、村と関わりあうことにより何が生まれるのか？村民にはどんな変化が起こりうるのか？それらのことを、タクティカルアーバニズムの考え方から、小さなチャレンジを常に繰り返してきています。

・今回のインターンシップは、行政職員だけではなく、外部人材の「学生メンター」や「アドバイザー」が関わり、地域内外の人たちによって協働デザインが行われています。今回のように、「大学生と村民とがどう関わりあうことができるか」を考える、デザインすることを目標に、自身になにができるか、小さなアクションをどう起こせるかを考えてみてください。

・希望と本人の能力審査により、サマーインターン時点からインターンシップ運営側（学生メンター）での関わりも可能です。また、サマーインターン後、ウィンターインターン（予定）に向けた準備段階からは、サマーインターン生すべての方に参加権利があります。

・このプログラムは、夏季のみの参加も可能ですが、冬季まで（ウィンターインターン運営）の長期参加をおすすめします。外部人材（学生メンター、アドバイザー）とともに、地域内外の人と人との「協働」を描くチャレンジが体験できます。

以上